

自主調査研究報告 [完了報告]

寒地空港整備と地域振興に関する調査研究 (他2B-3-①)

大分類	他2B
中分類	他2B-3

1. 目的

北海道内の7空港（旧国管理：新千歳、稚内、釧路、函館、旧道管理：女満別、旧市管理：旭川、帯広）は令和2年度から空港運営の民間委託（いわゆる民営化）に伴い、北海道エアポート株式会社（以下、HAP）が管理運営を行うこととなった。民営化にあたっては、ゲートウェイとなる各空港の有効活用や戦略的な空港間の連携を進め、観光客を北海道全体に分散、周遊させることでさまざまな経済波及を道内に広げ、地域活性化につなげることが目的の一つとなっている。しかしながら、令和2年からのコロナウイルス感染症拡大によって国内外の人流が途絶えたことから、HAPにおいては種々の事業が中止されたり先送りされたりしている状況にある。

そこで、ポストコロナの観光客の復活を見据えて、当センターの今までの港湾を中心とした地域振興にかかる調査研究の実績も生かしながら、上記7空港の観光目的の空港利用者増大及び満足度向上に資する調査研究を実施する。令和7年度は調査研究の最終年となることから令和4年度からの研究結果をとりまとめて報告書を作成する。

2. 実施内容

道内7空港の利用者増大に向けた課題はいくつか挙げられるが、観光コンテンツが豊富な札幌圏（新千歳空港利用）への集中をいかに分散させるかが大きなテーマとなっている。そこで、従来の「食」や「自然」をターゲットにお

いた従来の観光に加えて、今後の成長が見込まれるアドベンチャーツーリズム（例えばサイクリングツーリズムなど）に着目することとし、札幌圏への立ち寄りに拘らないアドベンチャー系の観光客の行動パターン等を分析することにより、地方空港の活性化ひいては地域振興につなげていくことを目的としている。

令和6年度は、①インバウンド観光客の北海道への印象や北海道を取り巻く情勢、雰囲気・感情などを探るためにSNSのXから「つぶやき」を抽出した。キーワードは「Hokkaido」と「Sightseeing」、「Adventure」、「Cycling」、「Hiking」を組み合わせて抽出を行った。②次にアクティビティを行う上でスーツケースが邪魔になることから空港から利用できる配達サービスについて調査した。また、コインロッカーに荷物を預けるとホテルまで配達してくれる最新のスマートロッカーの実証実験について調査した。③さらに、北海道サイクリルルート連絡協議会（主催：DEC）に参加し、移動の起終点となる新千歳空港のサイクル環境から見た改善点を現地調査した。④この調査の参考とするため先進地である瀬戸内しまなみ海道を調査とともにゲートウェイ空港である広島空港についても現地調査を行った。⑤最後に地方空港の活性化のため着陸空港から出発するサイクリングモデルコースを作成した。

3. 主要な結果

①「つぶやき」数は令和4年4月から令和7年3月までの36カ月間で観光がキーワードのものが347件、アドベンチャーが607件、サイ

クリングが180件、ハイキングが171件収集できた。これらについては計量テキスト分析を行い、特徴を整理した。

②スーツケースの配送サービスは新千歳空港から札幌市内までは7サービス、函館空港から市内までは1サービス稼働していることを確認した。しかし、他の空港ではそのようなサービスは存在しなかった。スマートロッカーについては広島県瀬戸田港で行われていた実証実験を調査し、仕組み、料金、使用方法などについて取りまとめた。

③新千歳空港から自転車に乗って国道に連絡するまでの最適なルートについてDECなどと共に現地調査を行った。今後はそれらの結果を基にHAPなど関係者が実現に向けて調整を行う。

④しまなみ海道ではサイクリングロードを調査しサイクリストを呼び込むための設備や仕掛けについて調査した。広島空港では空港内の自転車組立設備や更衣室、自転車用ダンボール置場などサイクリストにとって利便性の高い空港施設を取りまとめた。

⑤着陸空港の情報充実の一環として、空港から直接出発できるサイクリングルートを作成した（函館空港からのルートは複数のトンネル通過が避けられないことから除外）。

今後の対応

令和7年度はこれらの内容を取りまとめた報告書を作成し、HAPと意見交換を行って今後の北海道空港を核としたアドベンチャーツーリズムの振興につなげていく。